

## 富士宮市

### 地形概況

富士火山とその西南麓斜面が広く大沢崩れ末端の扇状地もひろがる。天子山地・朝霧高原も広い。北山・星山・安居山など古富士泥流堆積地は丘陵となり、入山瀬断層が走る。潤井川とその支谷は山麓斜面や丘陵を開析し谷底低地を形成している。

### 地質概況

玄武岩質溶岩と火山砂礫からなる富士火山が広く分布する。裾野には火山扇状地の砂礫層や、古富士火山噴出物からなる丘陵や、変位による台地が分布し断層も発達する。西部は御坂層群や天子山地を構成する礫岩・砂岩・火砕岩からなる。

### 気象概況

年平均気温は市街地付近で推定 13°C程度で標高が増すに従い低くなる。年平均降水量は白糸で 2,206mm と富士山麓としては少ないが、標高が高くなるにつれて量は増す。日照時間は山岳気象に影響を受けて平均以下と見られる。

### 災害事例 地震

- 1996年3月7日（平成8年）山梨県東部の地震 M=5.8  
山梨県東部が震源で、河口湖で震度5を記録した。富士宮市では市役所の震度計が震度5を記録し、議場の照明用金属板23枚が天井から落下する被害が出た。
- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9  
県中・西部で被害が大きかったが、当地では白糸で震度5程度であった。
- 1923年9月1日（大正12年）関東地震 M=7.9  
東京・横浜を潰滅させた大地震である。当地では大宮町で家屋全潰7戸(0.06%)を生じた。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4  
全県下にわたって被害を生じた大地震で当地の被害は、大宮町で総家数240戸のうち潰117戸、大破123戸、青木で水窪貯水池ひびわれ使用不能、神田町で潰れ家多く、地われ、蔵潰れあり、安居山で東漸寺の本堂・庫裡ゆがみ、鐘楼つぶれ、門が崩れた。また精進川村では居宅皆潰81戸、半潰30戸で無難は2戸のみであり、死者5人、負傷者3人を生じた。震度でみると大宮・精進川6~7、野中東6、杉田・黒田・沼久保・大中里5~6、上井出4~5などである。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4  
全県下にわたり被害が大きい。当地でも大宮で神社仏閣が傾き、民家も多く潰れ、地割れから水が噴出した。また村山では浅間御本地堂鎮守大棟梁など3寺中、門前や社領の家が残らず潰れ、4人の死者と多数の怪我人を出した。震度は6と推定される。

### 災害事例 台風

- 1979年10月19日（昭和54年）台風20号

全県下に被害を生じたが、当地では全壊 3 戸、床上浸水 236 戸、床下浸水 887 戸、流失田畑 18.1ha、道路 140 箇所、橋梁 11 箇所、堤防 157 箇所、崖崩 26 箇所の被害があった。

- 1966 年 9 月 25 日（昭和 41 年）台風 26 号  
全県下特に中部で被害が大きかった。当地の被害は負傷者 29 人、全壊 105 戸、半壊 108 戸、一部破損 1,109 戸、非住家 460 戸、床下浸水 67 戸、田畑冠水 40ha、道路決壊 5 箇所、山崩れ 4 箇所などである。
- 1959 年 8 月 14 日（昭和 34 年）台風 7 号  
県中部以東に被害があり、当地では死者 1 人、負傷者 12 人、全壊 53 戸、半壊 177 戸、床下浸水 26 戸などの被害があった。
- 1947 年 9 月 15 日（昭和 22 年）カスリン台風  
13 日から雨が降り続いたが、15 日は白糸で日雨量 326mm に達する豪雨となり、全県下に風水害(家屋の浸水、堤防や橋の決壊、山崩、田畑冠水)を生じた。
- 1828 年 8 月 10 日（文政 11 年）  
大洪水で、神田川は土砂で埋没して陸となってしまった。農作物の被害は言語に絶するものがあった。

#### 災害事例 豪雨

- 1907 年 7 月 13 日（明治 40 年）  
県の東・中部で大雨が降った。富士宮での日雨量は、367mm に達した